

2024年3月22日 社長会見要旨

【会見要旨】

本日は、「2024年度ほくでんグループ経営計画の概要」、「業績予想および期末配当予想の修正」などについてお話しします。

【2024年度ほくでんグループ経営計画の概要】

はじめに、新年度を迎えるにあたり、新たに経営計画を策定しましたので、ポイントを絞ってご説明します。資料1の1ページをご覧ください。

豊かな自然エネルギー資源に恵まれ、国内随一の再エネ導入ポテンシャルを有する北海道は、多くの企業から注目と期待を集めています。足元では、次世代半導体工場や大型データセンターといったデジタル産業の道内進出の動きが活発化しており、さらには関連産業の集積も見込まれ、道内経済の発展が期待されています。ほくでんグループにおいても、北海道への企業誘致に取り組んでいますが、このような流れは、大変有難いことだと考えています。これらの産業進出により、これまで減少傾向にあった道内の電力需要は、大幅な増加に反転する可能性が高く、ほくでんグループは飛躍的な成長を遂げる千載一遇のチャンスを迎えています。

こうした経営環境の変化の中においてもほくでんグループの強みを活かして力強く成長していくため、この度、グループが目指す新たな事業ポートフォリオを定め、2024年度のほくでんグループの経営計画を策定いたしました。これまで、新年度の経営計画の概要については、皆さまに4月下旬に説明しておりました。2024年度は新たな成長ステージに立つとの認識を強く持ち、新たな事業ポートフォリオを踏まえた価値創出の取り組みと、持続可能な成長を支える取り組みの双方を展開することで、グループのさらなる成長を実現するとともに、北海道の持続的な発展に貢献してまいります。新年度が始まる前にこうした思いを皆さまにご紹介させていただきたく、この時期の説明とさせていただきます。

只今お話ししました2024年度の経営計画策定の背景を補足しますと、4ページのとおり、「経営環境の変化」として、安定供給と脱炭素化の両立に向けた政策の導入や、産業進出や地域課題の顕在化といった道内の環境変化、さらには、資本コストや株価に関する資本市場からの要請などについて重要視しています。

こうした経営環境の変化を的確に捉えるとともに、5ページに記載のとおり、各ステークホルダーからのご期待にもお応えしていくことが重要であると考えております。

6ページには、ほくでんグループの強みをまとめています。

今申し上げた経営環境の変化と、ステークホルダーからのご期待、ほくでんグループの強みを掛け合わせて、この度、新たな事業ポートフォリオを策定しております。

新たな事業ポートフォリオの内容についてご説明いたします。7 ページをご覧ください。

下段の図に記載しているとおり、「既存領域」である発電・送配電・小売といった電気事業においては、後段 21 ページから 24 ページに記載しておりますが、カイゼンや DX の推進などにより、経営の効率化に引き続き取り組み、後ほど説明いたします既存領域における利益拡大に向けた取り組みなどにより、利益を生み出しつつ、大胆に「選択と捨象」を進めます。

一方で、7 ページの図において既存領域の上段にある再エネ開発や火力のカーボンニュートラル化、水素・アンモニアの利活用、エネルギー・マネジメントなど、グループの強みを活かした事業分野を「変革領域」と位置付け、将来に向け新たに本格的に取り組んでまいります。既存領域の「選択と捨象」により生み出した経営資源を変革領域に配分することで、ビジネスモデルの変革と事業領域の拡大を実現してまいります。

続けて、既存領域における利益拡大に向けた取り組みについてご説明いたします。10 ページをご覧ください。

多くの企業が北海道に進出していただくことにより中長期的には、道内の電力需要の大幅な増加が見込まれます。当社は、このチャンスを活かし、責任あるエネルギー供給の担い手として安定供給の確保と脱炭素化の推進を両立し、お客さまに選ばれる企業を目指してまいります。

11 ページをご覧ください。お客さまの多様なニーズにしっかりとお応えできるよう、北海道の再エネ導入ポテンシャルを活用し、お客さまのカーボンニュートラル化実現に資するサービスや電気料金メニューの拡充を進めてまいります。

続けて、安定供給の確保、脱炭素化の実現の両面において大きく貢献する泊発電所の再稼働に向けた取り組みについてご説明します。原子力規制委員会による審査への対応について、12 ページをご覧ください。

スケジュール表の中央縦書きにしている設置変更許可取得に向けた当社からの一通りの説明を終える時期について、これまで、今年 6 月下旬を目指してまいりましたが、10 月上旬に見直しすることを本日の審査会合において説明いたしました。この見直しは、これまでの審査における議論を踏まえ、耐津波設計方針に関する解析を追加で行う必要があること、さらには審査内容に応じた適正な審査時期の設定を行い、安全性に関わる説明と議論を確実にを行うために必要な期間として判断したことによるものです。引き続き、残る審査項目に係る検討について、総力を挙げて取り

組んでまいりますとともにスケジュール表に記載のとおり、原子炉設置変更許可以降の設工認審査や使用前事業者検査、次に説明いたします安全対策工事を早期に完了させ、泊発電所の早期再稼働を目指してまいります。

次に、泊発電所の安全対策工事に関しては、2月の審査会合において防潮堤の基本構造の説明を終えたことから、3月28日より、防潮堤の設置工事を開始することといたします。

防潮堤については、別にご用意している資料2の添付資料をご覧ください。今回設置する防潮堤は、高さを海拔19メートルとしたことに加え、地中の強固な岩盤に直接支持させる「岩着支持構造」を採用することで、地震による周辺地盤の液状化を考慮しても安全性の高い構造としております。工事期間は、現状考え得る工程短縮方策を織り込み今回の設置工事の開始から3年程度での完成を目標とし、さらに、少しでも早い完成を目指して取り組んでまいります。また、工事費用は、準備工事分を含め約1,800億円を予定しております。工事にあたっては、地域の皆さまおよび関係各所のご理解とご協力をいただきながら、安全を第一に取り進めてまいります。当社は、福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないという強い決意のもと、これまでの安全対策にとどまることなく、重大事故リスクの一層の低減に継続的に取り組み、皆さまから信頼していただける発電所を目指してまいります。

続けて、資料1に戻りまして、変革領域の取り組みである事業領域の拡大についてご説明します。

15ページをご覧ください。北海道の豊富な再エネ価値を活かした事業分野として再エネ電源の拡大を着実に実施してまいります。

続けて17ページをご覧ください。同様に再エネ価値を活かした事業分野として国や自治体、他企業とも連携しながら、エネルギー・マネジメント事業に積極的に取り組んでまいります。具体的には、再エネアグリゲーションや、系統用蓄電所、PPAなど、様々なソリューションサービスを組み合わせることにより、お客さまや地域のカーボンニュートラルに資する、新たなビジネスモデルの構築を進めます。

このほか、16ページに記載しております水素・アンモニアの利活用、加えて、18ページに記載しておりますお客さまのお困りごとや社会課題の解決、好循環に繋がる様々なサービスのご提供を進めてまいります。

なお、持続可能な成長を支える取り組みの一つとして、「カーボンニュートラル2050の実現に向けた取り組み」を、28ページから30ページに記載しております。

29ページに記載のとおり、この度、CO₂削減に向けた具体的な取り組み事項をロードマップとして、さらに、30ページには電源の脱炭素化によるCO₂削減効果を取りまとめております。

続けて、持続可能な成長を支える取り組みについてご説明します。ページが前後

して恐縮ですが、26 ページをご覧ください。

ほくでんグループは、不確実性が高い経営環境においても成長し、企業価値を高めていくために、先ほど説明しましたカーボンニュートラル 2050 の実現に向けた取り組みや、地域との共創、従業員の能力最大化、ガバナンスの充実など、サステナブルな成長を支える取り組みを進めてまいります。

これらの取り組みのうち、従業員の能力最大化に向けた取り組みをご紹介します。38 ページをご覧ください。これまでご説明してきた経営計画を着実に進めていくためには、原動力となる従業員一人ひとりのさらなる活躍や、能力の最大化に向けた施策が不可欠であるとの考えのもと、この度、「ほくでんグループ人材戦略」を策定しました。

人材戦略についても、別にご用意している資料 3 添付資料の 3 ページをご覧ください。今回策定した人材戦略は、基本コンセプトである「人材育成」「環境整備」の両面から取り組みを進めます。さらに、基本コンセプトを達成するために、5 つの視点で具体的な施策を導き出しました。これにより、今行っている仕事のなかにある様々な価値を高めながら、新たな価値を生み出す企業風土の創造を目指してまいります。

続けて、4 ページをご覧ください。こちらに記載のとおり、従業員の声を踏まえながら、人材マネジメントの各領域で具体的施策を実施してまいります。

各施策の詳細については、5 ページ以降に記載しておりますので、後ほどご覧ください。

ほくでんグループは人的資本への投資を進め従業員一人ひとりの熱意と、やり遂げる力を引き出すことで、北海道の明るい未来にも貢献していきたいと考えております。

「経営計画の概要」の説明は以上となります。今回、新たに定めた事業ポートフォリオや人材戦略にもとづく取り組みを進め、ほくでんグループはさらなる成長を目指してまいります。また、経営環境の変化やほくでんグループの成長を見据え、利益水準、自己資本比率、ROIC などの経営目標や、経営ビジョンの見直しも検討を進めていきます。

【業績予想および期末配当予想の修正】

最後に、「2023 年度業績予想および期末配当予想の修正」についてご説明します。

資料 4、2 ページ上段の「2023 年度 連結業績予想」の表をご覧ください。至近の動向を踏まえ、本年 1 月 31 日に公表した 2023 年度業績予想および期末配当予想について、修正いたしました。売上高につきましては、卸電力市場価格の低下に伴い他社販売収入が減少することなどから、1 月公表値に比べ 50 億円減少の 9,480 億円程度となる見通しです。経常利益につきましては、卸電力市場価格の低下や水力発電量の増加などにより、1 月公表値に比べ 240 億円増加の 880 億円程度となる見通し

です。また、純利益につきましては、経常利益の増加などにより、1月公表値に比べ110億円増加の660億円程度となる見通しです。なお、小売・他社販売電力量につきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度による販売量の増加などにより、他社販売電力量が増加する見込みであることから、1月公表値に比べ5億kWh増加の336億kWh程度となる見通しです。

経常利益の1月公表時からの変動要因につきましては、3ページにまとめておりますので、後ほどご覧ください。

続けて、期末配当予想についてご説明いたします。4ページをご覧ください。

2023年度期末配当予想につきましては、2023年度の業績予想および中長期的な経営環境や収支状況などを総合的に勘案し、普通株式については、1株当たり5円から15円に修正いたします。これにより年間配当金は、中間配当5円と合わせて、1株当たり20円となります。なお、B種優先株式は、前回の公表から変更なく、定款の定めに従い実施する予定としております。

私からは以上です。